

北海道情報大学学内報 特別号



(松尾記念館)

● 目 次 ●

本学創設者 松尾三郎理事長の立像建立について … 2	第9回 体育祭…………… 11
故 松尾理事長の葬儀が執り行われる… 3～6	1日オープンキャンパス…………… 11
電子開発学園・新理事長就任…………… 7	ゼミナールちょっと拝見…………… 12
人・CLOSE-UP Vol. 1…………… 8	C L U B自慢…………… 13
海外訪問記 松井助教授…………… 9	主要行事…………… 14
Library Information …… 10	編集後記…………… 14

発行・北海道情報大学

〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL 011-385-4411 FAX 011-384-0134

—— 本学創設者 松尾三郎理事長の 立像建立について ——

平成10年学校法人電子開発学園は、学園創基30周年を、また本学は開学10周年を迎えました。

当学園松尾理事長は、情報化時代の黎明期である昭和43年、千歳市に北海道電子計算機専門学校を開設、以来今日に至るまで全国に10校の情報に関する専門学校を設置、多くの人材を育成し情報化社会に貢献して参りました。

しかしながら21世紀にむけて高度情報化社会の到来に対応する情報技術者育成の必要性が、ますます増大することを予見し、昭和60年頃から高等教育機関としての大学設置を構想、平成元年北海道情報大学を創設、以来平成6年には我が国初の通信衛星を活用した通信教育を開設、平成8年には大学院経営情報学研究所を開設するとともに、校舎、校地並びに教育・研究用機器、図書文献等々と整備充実を図り、短期間に学園グループはもとより今日の北海道情報大学の隆盛を見るにいたりました。

松尾理事長の経営者、科学者、教育者としての業績、また経営手腕、識見、指導力等々そして何よりも暖かい人柄は、電子開発学園グループの飛躍的發展の牽引力となったことは衆目の認めることであると思います。

この度の学園創立30周年、大学開学10周年に当り、松尾理事長の多くの功績を顕彰し、情報教育への深い情熱にこたえ高邁な建学精神の徹底を期するため、全学教職員並びに関係者が相寄って理事長の立像を建立することとなりました。

立像は記念事業として建設された松尾記念館の正面に建立され、平成10年8月26日爽やかに晴れ渡った秋空のもと、緑豊かな木立につつまれるように納められた立像の除幕式が関係者多数の参列のもとに執り行われました。





故 松尾三郎理事長

故 松尾理事長の葬儀が 執り行われる

本学創設者松尾三郎理事長におかれては、平成7年5月大腿骨を骨折し3ヶ月余の入院加療をされましたが、その後容態も快復し勤務に服され海外出張等従前にも増して精力的に業務を処理されておられました。

しかし、平成9年6月、日頃の激務により再発し入院の上療養に専念されてまいりましたが、平成10年9月1日午後1時54分急性心不全のため享年84才をもって永眠されました。

葬儀は、9月2日、3日の両日近親者のみによる密葬が相営まれましたが、電子開発学園グループによる合同葬が平成10年9月22日東京都青山葬儀所において政・財・官等各界の関係者多数の方々のご参列を頂きしめやかに行われました。

又、平成10年10月2日午後1時から新設なった北海道情報大学松尾記念館の大講堂において、電子開発学園葬が執り行われました。

菊の香りにあふれ、ありし日の松尾理事長の温容をしのばせる遺影が掲げられた式場には、道内政・財・教育界をはじめ本学教職員、学生等五百有余の参列者が、故理事長との別れを惜しまれました。

式は、開式の辞のあと一同起立して故松尾理事長の御霊にたいし哀悼の意を表するため黙禱を捧げた後、生前の理事長を偲ばせる開学記念式典等のビデオが放映され、次いで札幌交響学団弦楽八重奏による追想演奏が行われました。

続いて、理事長と最も親交の深かった北海道尚志学園の有江幹男理事長が御霊にぬかづき、声をつまらせながら告別の辞を述べられました。

更に、日本私立大学協会北海道支部長森本正夫、江別市長小川公人、学校法人椋山学園理事長太田正光、学校法人電子開発学園理事木下重教、北海道情報大学長三枝武男の各氏から弔辞が述べられ故松尾理事長の人柄と功績がたたえられました。

引き続き、内閣総理大臣小渕恵三、文部大臣有馬朗人、外務政務次官町村信孝、衆議院議員倉成正和、北海道大学総長丹保憲仁、社団法人日本教育工学振興会会長宮島龍興、宇宙開発事業団理事長内田勇人、中国南京大学副学長謝律の各氏、その他内外からよせられた百数十通の弔電が拝読されました。

このあと、有江幹男葬儀委員長から、会葬者にたいする謝辞ならびに残された遺族への御厚情等、更に病状報告に加え告別の辞で十分言いつくせなかった故人の人柄について切々と語られ挨拶を終えられました。

最後に、喪主、ご遺族、葬儀委員長、葬儀委員の順に献花が行われ、続いて参列者が順次祭壇にすすみ献花を行い出口で答礼する喪主、葬儀委員長等に挨拶の上退場し滞りなく学園葬を終了いたしました。



葬儀の際の故人を偲ぶ挨拶の中から告別の辞と弔辞を掲載致します。
(弔辞は5名様の中から三枝学長の挨拶を掲載致しました)

告 別 の 辞

ついこの間8月26日、初秋を思わせるような素晴らしい日に、北海道情報大学の構内では紅白の幕で囲まれた祭場が設けられ、新しく完成した松尾記念館前に松並木を背景として建立された創設者松尾三郎翁の立像除幕式が挙行されました。昨年来病床に伏しておられたために松尾翁の出席がなかったことを出席した一同は残念に思ったことでしたが、間もなく9月7日に計画されていた電子開発学園創基30周年と近々開学10周年を迎える北海道情報大学の祝賀行事には、万が一にもお迎えできないものだろうかと思いを抱いたのは私だけではなかったと思います。

強い意志と理性を兼備し、日頃は頑強そのものの体格、風貌の持ち主であり、きっと再起の日もあろうかという期待も空しいことになってしまいました。今から思い返してみますと、網島毅さんがわが母校北海道帝国大学工学部の電気工学科二期生であったということがご縁で、お二人で北大の学長室をお訪ね下さったのが、松尾さんの知己の列に加えて戴いた始まりでした。これより少し以前に兄を二人失いました私にとりましては、その後次第に見貴分のような親しさを覚えるようになり、人生の先輩としても敬愛して止まなかった松尾三郎さんのために、今ここで告別の辞を述べなければならぬ宿命は誠に悲しき限りです。

松尾理事長が急性心不全のために9月1日午後1時54分にこの世を去られたということが私の耳に到達したのは、その日の3時少し前のことであると記憶しています。丁度私は会議を主催していた最中でしたが、今田事務局長よりの電話という秘書からの連絡でしたので、取り敢えず別室の受話器をとりましたところ、松尾さんご逝去とのこと、頭の中が真白になるとはこのことかとも思いましたし、青天の霹靂という表現の精神状態を実感したことでした。7日に控えた祝賀行事とお弔いの取り運びを如何にしたらよいか、という意見打診に対する咄嗟の判断基準として脳裏に浮んだのは、その昔何かの機会に母より聞かされたことのある「慶びは延期しても、悲しみは延ばすものではない」という言葉で、このことを基本とした幾つかの意見を申し述べ、参考になればということも忘れて添えたつもりです。会議を了えて今度は私の方から電話し、既に郵便局留めとしてある7日の祝賀式典に対する祝電は如何にしたらよいか連絡を得たいこと、依然としてお弔いの諸行事を優先するべきであろうという私の考えに変わりはないことを重ねて述べたことでした。

松尾理事長が電子開発学園として情報関係を専門とする大学創設を構想されて以来のご縁であることは、網島先輩のことで先にも触れた通りですが、当時の手帳を繰ってみましたところ、これは昭和60年5月7日(火)のことです。何が故に情報科学系の分野を指向した大学を創設したいと考えるようになったか、北海道と大分のどちらかに立地したいと考えていること、どうして国際情報大学という名称を念頭においているのか、また、昭和43年以来北海道から九州に至る全国各地の電子計算機専門学校を開校するに至った経緯に加え、いづれはこれらをインテグレートした壮大ともいえるような教育組織の構築を考えたいということ等々、大学設置構想の根幹に関する事項に就いて熱っぽい説明を聞かされ、網島さんは側においてその意見をサポートしておられた時のことを何故か今も鮮明に記憶しています。私は機械工学の一分野を専攻した者として門外漢ながら、当時の立場上、北海道における情報関連産業は地域の将来を考えても強化育成されるべき時代の到来していることを秘かに感じていたものですから、大分ではなく北海道で大学創設のことを慫慂申し上げたことが、そもそものおつき合いの始まりであったということになります。ご令息の泰さんは勿論のこと、大学設置申請に携わった事務方の方々をはじめ多くの関係者を存じ上げるようになったのもこれより少し後になってからのことでした。

わが国における情報リテラシー向上の必要性と緊急性に就いて折ある毎に松尾さんの持論展開を聞かされた方は沢山おいでの筈です。私共にとっては悪夢でもあった第二次世界大戦の終末を機として、既に成熟の域に入りかかっていた工業社会は、従前から電信という通信手段に使われていたオン・オフの技術をバイナリー・システムとして計算機に利用し、その後電導体の開発によって僅かこの数十年の間に現在のようなデジタル・コンピューターを軸とした情報技術の発達に至る端緒が拓かれました。その成果は現代社会の一面を情報化時代とさえ呼ぶようになっていきます。

松尾さんは京都帝国大学において電気工学を学び、卒業後直ちに逓信省工務局に職を得て実務に携わりましたが、戦後は日本電信電話公社電気通信研究所に暫く籍を置かれ、京都大学から工学博士の学位も授与されておられます。浜松町にある東京タワーの設計に参加したことのあったことを松尾さんから直接伺ったことがありますが、これは多分昭和32年に移られた日本電波塔株式会社取締役技術部長時代に手がけたお仕事の一つ端であったものと思います。

一連の通信事業に関わる電気技術者としてのご経歴を背景として、時代の趨勢を逸足し洞察されたものと推察しますが、この頃から実業家として情報産業への進出と情報技術者の育成に眼を向けられるようになりました。情報技術を先導する幾つかの会社を設立し、これを背景とした諸活動によって大きな成果と社会貢献を果されて今日に至りました。特に北海道情報大学の周辺に平成2年には北海道情報技術研究所、翌3年には学習情報通信システム研究所を配置することによって展開中のグループ活動は、数年前から文部省の後援で発足している衛星通信教育振興協会の事業を先取りした形でわが国における高等教育普及策の最先端を担っているわけで、これは偏えに今は亡き松尾会長の慧眼によるものであって、他日不滅の評価対象の域に到達することが必定な将来性が秘められていると思います。ご関係の各位が意を現して継承発展に努めなければならない大事な事業の一つであるものと考えます。

北海道情報大学創設の哲学は松尾三郎翁の時代を読み取る卓越した洞察力と情報リテラシー向上に対する異常ともいえるような熱意に裏づけられ、これに魂を入れることに尽力された多くの教職員各位がおられてこそ今日の姿があります。請われて創設当初の計画に参加した者の一人として、松尾翁に対する感謝の筆頭に挙げなければならないことは、この地、北海道に情報大学を開設して頂いたことによって、情報科学技術者の養成を軸として道内における情報産業に対しても限らない将来の発展に期待を繋ぐことのできたことであり、一方では意のある多数の同僚、友人に対しても生き甲斐と使命感に溢れた職域としての活躍の場を創出して戴けたことです。

ビールや酒よりも「いいちこ」を所望され、梅干し入りの僅かな焼酎に気持をほぐされて興に乗ると、時には口にされていた「ア、納豆、納豆」の掛け声はもう聞かれませんし、お会いする時にはよくカメラを抱えてこられて写真を撮って下さっていましたが、もう頂戴することのできたアルバムの数が増えることもなくなってしまいました。昨年の6月、京王プラザホテルでの夕食後、杖を支えにして私を見送って下さったのがお元気であった時の最後の姿であり、この間の6月初めお見舞に伺った時、緑に囲まれた愛誠病院の一番奥の病室に臥せておられたのが私のお会いした一番最後でした。何年もの間、多くても年に1度か2度の機会でしたが、声咳に接することを重ねて感得した包容力豊かな松尾さんのお人柄の一面は私にとって師表の一つでもありました。

情報化時代の到来を先取りして数々の業績を残すと共に、84才の生涯を賭して拓いた人材育成の途を後世に托して、現代情報化社会の先頭を駆け抜けて逝かれた松尾三郎翁の偉大なる足跡を偲び、公私に亘って頂戴したご厚誼に対し尽きるところのない謝意を表する次第です。

御霊の安わらんことを祈念して告別の辞といたします。

平成10年10月2日

北海道尚志学園理事長 有江幹男
元北海道大学長

弔 辞

学校法人電子開発学園北海道情報大学 故 松尾三郎理事長のご霊前にて謹んで弔辞を申し上げます。
松尾三郎理事長には現職でご活躍中のところ、病のため平成10年9月1日13時54分ご家族の見守る中永眠されました。哀悼の意を表するという言葉では言い尽くせない想いが残ります。

松尾三郎理事長には昭和13年3月京都帝国大学工学部電気工学科卒業、同年4月通信省工務局勤務、戦時中は海軍技術士官として海軍技術研究所等で活躍され、28年4月日本電信電話公社電気通信研究所無線課長として電波技術行政に関与され、その間のアンテナ・電波伝搬の研究業績により京都大学から26年12月工学博士の学位を授与されました。心機一転、29年4月株式会社ニッポン放送技術局次長に転出され、32年5月日本電波塔株式会社取締役技術部長として東京タワーの建設に中心的役割を果たされ、37年8月日本ビジネスオートメーション株式会社取締役副社長を経て、40年5月日本電子開発株式会社代表取締役社長となり、以来株式会社エスシーシー、宇宙技術開発株式会社・株式会社北海道情報技術研究所・株式会社学習情報通信システム研究所・株式会社エスシーシーアンドシーシーアイ等を相次いで設立され夫々社長や会長として敏腕を振るわれました。

また、昭和51年4月郵政省電波審議会委員、62年4月産業構造審議会人材特別委員会委員、62年12月社団法人日本教育工学振興会副会長、平成4年9月全国日本学士会副会長等の要職に就かれる等全国的活動も続けられ、通商産業省大臣賞・電気通信協会会長賞や全国日本学士会からアカデミア大賞等の賞を贈られております。国際的には中国南京大学、我国初の顧問教授となり、タイ国等と共に国際的衛星通信教育の基を開かれ、またジェームス・マーチン博士のIE理論を我国に取入れ、紹介する等素晴らしい業績を残されました。

一貫して我国の技術教育に心血をそそぎ、昭和43年4月北海道電子計算機専門学校開設を皮切りに全国に10ヶ所の専修学校を設立し多くの人材育成を続けられました。これらをバックに平成元年4月北海道情報大学が松尾三郎理事長の高邁な理念のもと、開学されました。

情報系の総合大学を目指し、先づ経営情報学部として経営学科・情報学科を設け、文系でも理系でもない新しいユニークな学問体系を打ち出して参りました。通学課程で6回の卒業生を出し、平成6年独自のネットワーク・パインネットを活用し、衛星通信教育システムを先駆けて実施した通信教育部と更に平成8年大学院経営情報学研究科を開設し、今年3月それぞれ卒業生を出す事が出来ました。

今年は電子開発学園創設30周年、北海道情報大学開学10周年という区切りの年で、その記念式典を楽しみにして居られた矢先の事で誠に残念で惜しみて余りあります。心からご冥福をお祈り致します。

松尾三郎理事長は卓越した頭脳・行動力・実行力・先見性により学者として、経営者として、企業家として素晴らしい情熱をもって我々関係者を導いて下さいました。

厳しい指導力の中に人情味溢れる暖かい人柄で人々を引きつける魅力のある方で多くの人々を育て社会に貢献してこられました。

松尾三郎理事長には日頃お丈夫でドック以外病院にも殆どかからず自慢して居られましたが、ご自宅での転倒が原因で腰の骨を折られ入院手術後、リハビリ等で可成り歩行も出来る様になったと快復を喜んで居りました。その後再入院で進退をくり返して居りましたが現職としての責任感が強く病院で実務をとる等終生休む間も無くご活躍頂きました事、誠に有難うございました。我々は松尾三郎理事長のご遺訓を守り本学園の益々の発展、人材の育成に努力する事を誓わせて頂きます。

長い間本当にご苦勞様でした。安らかにお眠り下さい。大学開学10周年を記念して建てられた銅像から松尾記念館と共に本学園の行末を末永くお見守り下さい。

長年のご業績を讃え、ここに謹んで弔辞と致します。

平成10年10月2日

北海道情報大学学長 三 枝 武 男



松尾 泰 理事長

電子開発学園・新理事長就任

本学園創設者松尾三郎前理事長は、平成10年9月1日病氣療養中のところ近代医学の力も及ばず、またご家族の手厚い看護にもかかわらず同日午後1時54分心不全のため逝去されました。

これに伴い、緊急に後任理事長の選任が必要となり、平成10年9月7日臨時理事会を本学において開催し、新理事長の選考を行った結果、出席理事全員一致で松尾泰理事が選任されました。

松尾新理事長は、本学園設立当初から前理事長の片腕となり学園経営の大きな支柱となっており、特に本学創設に際しては、設立準備室長としてその能力をいかんなく発揮され、更に大学設立後は通信教育部の開設ならびに大学院経営情報学研究科(修士課程)の設置など、いづれも設置準備室長として文部省に対する構想説明など再三にわたる意欲的な折衝を重ねるなど、本学の今日の発展に大きく寄与されました。

今後は、前理事長の遺志を継ぎ学部を増設等の実現にむけて努力し、ますます困難となる私学経営に非常な熱意を燃やされております。

松尾 泰 理事長 略歴

昭和19年7月26日	東京都に生まれる。
昭和44年3月	慶応義塾大学経済学部卒業
昭和44年4月	アーサー・アンダーセン・アンド・カンパニー会計事務所
昭和47年7月	
昭和47年8月	日本電子開発株式会社
昭和59年6月	
昭和59年6月	ソフトウェア・コンサルタント株式会社取締役
昭和59年7月	同社 専務取締役
昭和63年6月	
昭和63年7月	株式会社エス・シーシー専務取締役 (ソフトウェア・コンサルタント株式会社 社名変更)
平成4年6月	
昭和63年12月	学校法人電子開発学園理事
平成10年9月	株式会社エス・シーシー 副社長
平成4年6月	
平成5年6月	
平成5年6月	株式会社エス・シーシー 代表取締役社長
現在に至る	
平成10年9月	学校法人電子開発学園理事長に就任
平成10年9月	学校法人電子開発学園九州理事長

海外訪問記

教養課程 助教授 松井 伸也

97年の6月1日から、4ヶ月の予定で海外出張に出ました。実際には、ItalyのComo湖(1週間)・FranceのParis(4日間)・CanadaのVancouver(1ヶ月弱)を経て日本に帰ってきました。少しだけ世界一周の気分です。ただ個人的な理由からVancouverでの滞在を3ヶ月残して日本に帰国したので、それがとても残念なことでした。

今(98年8月)から1年も前のことなので、記憶も薄れていますが訪問した各地でのことを、思い出しながら書いてみましょう。

関空からFrankfurt空港経由で、MilanoのLinate空港に着いたのは、真夜中の12時ころでした。Frankfurt空港でAlitalia航空への乗り継ぎが、4時間ほど遅れたためこのような時間に着いたわけです。次の日は真っ直ぐシンポジウム(International Conference on Navier-Stokes equations Theory and Numerical Methods)のあるComo湖(Varenna)へと向かいました。

シンポジウムの表題のNavier-Stokes equationsとは、粘性流体の基礎方程式の名前です。このシンポジウムで印象に残っている話は、私も専門としている境界層現象の話でした。それはPalermo大学のMarco Sammartino先生の粘性流体(Navier-Stokes equationsの解)と非粘性流体(Euler equationsの解)の関係を境界層方程式(Prandtl equations)の解を使って述べると言う講演(Zero viscosity limit for Navier-Stokes and Stokes equations)でした。このような流体の取り扱い、物理的な観点からは100年ほど前に基本的には完成されています。しかし厳密な数学的取り扱い¹は、未だなされていませんでした。彼の研究は、京都大学の浅野先生の解析的解に対する研究(理解している人は非常に少ない)をより解りやすく展開し直したもので、結果も浅野先生のものより良いものでした。このとき私は別の方向からこの研究を進めていました。私の研究は、クラスの小さい解析的解ではなく、もっと広範囲な(2乗可積分な)解でZero viscosity limitを示す、というものでした。Sammartino先生の講演後、九大の宮川先生やUBCのHeywood先生²などに私の研究の話をし、その反応の良さに大いに気を良くしたものでした。このComo湖でのシンポジウムは、私に非常に良い刺激を与え

てくれたわけです。もう一つこのシンポジウムに出席して、少し驚いたのは企業からの寄付の多さです。例えば企業による招待で、コンサート・夕食会(2度)がありましたし、ホテルの滞在費・概要集への補助などもありました。100人程度の出席者ですから、かなりの額に上ると思われます。日本の企業などは、なかなか数学への補助などはしてくれません。何らかの意義を感じて、寄付をしてくれる訳でしょうから、一般の人の数学への理解が日本のそれより勝っているのではないのでしょうか。そうでないとしても、数学に寄付を出来る余裕があることは間違いないでしょう。こう考えると、日本の方が貧しいのではないか、と思えてきます。

さて紙面も残り少ないので、他の訪問地のことにも触れておきましょう。Parisには、奈良女子大学の柳沢さんが居られて、空港まで迎えに来てくれました。Parisでの生活は、午前中はセミナー(Paris 7)、午後は柳沢さんとParis見物、夜はやはり柳沢さんと飲み歩く、この繰り返しでした。私の内臓と柳沢さんに多大の迷惑をかけ、Parisを後にしLondon経由でVancouverに向かいました。Canadaでの生活の準備の出来上ったこの帰国しなくてはならなくなりました。UBCのHeywood先生に迷惑を掛けつつ帰国してきましたので、あまり書くことがありません。ただし先に書いた自分の研究は、日本で完成させたことだけを記して、最後としましょう。



¹ 数学者が納得するという意味。言い換えると(本当は)誰にでも理解できるもの、という意味です。

² Canadaでお世話になった先生です。

🏠🏠🏠🏠🏠 Library Information 🏠🏠🏠🏠🏠

『第41回 北海道地区大学図書館職員研究集会』

DATE 1998. 8. 7. FRI

去る8月7日(金)、『第41回北海道地区大学図書館職員研究集会』が、本年、開学10周年を迎える本学で、盛大(?)に開催されました。待望の松尾記念館が7月に完成し、まさにこの研究集会が、記念講堂の“こけら落とし”になるということもあり、運営スタッフ一同、ハプニングを予想して、緊張の1日となりました。

この研究集会は、毎年1回、『北海道地区大学図書館協議会』が主催し、会場を、各大学持ち回りで開催する大イベントで、この度も、全道各大学図書館から、140名の図書館員が参加し、「日頃の業務の参考に」と、活発に意見交換するなど、有意義な交流の場となりました。

また、研究集会の“目玉”となった、作家であり、『季刊本とコンピュータ』の編集長でもいらっしゃる『津野海太郎氏』のご講演が素晴らしく、大好評であったのも、この度の研究集会の成功の一つの大きな要因となりました(津野先生、本当に有り難うございました★)

最後に、学生、教職員の皆様には、臨時閉館等でご迷惑をおかけ致しました。この次に、本学図書館が当番館になるのは、17年後の予定ですので、しばらくは安心です...(本当に無事に終わって良かった!!)



講演 本とコンピュータ
津野 海太郎氏



テーマ別にわかれて活発な意見交換が行なわれた交流会

♪一口メモ♪

新図書館がOPENして、間もなく三カ月。皆さんが利用しやすい図書館を目指しております。

特に学生の皆さんがよく利用する、和図書は、新図書館では、所蔵するほとんど全ての和図書を『開架』に配列しています。配列の順番は、『十進分類法』に基づき、経済学、自然科学、文学etc...、本の書かれている内容で分類され、その順番に配列されています。(書架にそれぞれ、配列内容を表示していますので参考にしてください)

読みたい本を、自分で所蔵検索マシンで検索し、もし見つかった場合は、検索結果の情報の中の『分類番号』をチェックして下さい。その『分類番号』順に、本は配列されているのです。

ちなみにその『分類番号』は本の背表紙(タイトルの下あたりに貼ってあるラベル)に表記してありますので探して見て下さい。

探したい本が見つからない時は、係に気軽に声をかけて下さい。



第9回体育祭 行われる

体育祭を終えて

第9回体育祭実行委員長 小澤 真也
北海道情報大に夏をつげる行事、体育祭が今年も盛大に行われ、笑顔と筋肉痛とともに無事に事故もなく終わりました。参加人数も年々増えているようで各競技の参加率も高く、成功であったと言えるようです。これも学生のみなさんと関係者各位の方々のお陰であり、来年以降も実行委員のみなさんにはがんばってほしいです。学生の笑顔が実行委員のパワーになるので、これからの行事にも多くの学生の参加を願います。



結果報告

◇第9回情報大体育祭結果報告◇

総合優勝 3 C

総合2位 4 J 総合3位 2 A

☆各種目別順位☆

バレーボール	バスケットボール	ソフトボール	バドミントン
優勝 1 A	優勝 3 B	優勝 3 C	優勝 2 C
2位 2 D	2位 1 D	2位 3 A	2位 2 A
3位 3 D	3位 3 D	3位 4 J	3位 3 C
サッカー	ドッジボール	リレー	
優勝 1 B	優勝 4 J	優勝 3 C	
2位 4 J	2位 3 C	2位 2 A	
3位 3 C	3位 2 A	3位 4 J	

北海道情報大学 × Air-G'

高校生のための

1日オープンキャンパス

オープンキャンパスを終えて

広報担当係長 小松田 昭人

去る8月30日(日)午前11時から高校生141名(男子72名・女子69名)を松尾記念館・講堂に集め、オープンキャンパスが行われました。

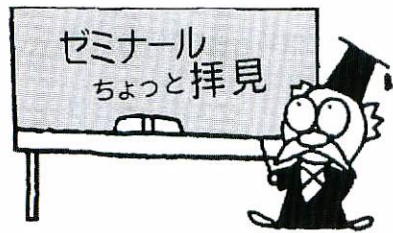
当日は、朝から小雨の降るなか参加人数が心配されましたが、前述したとおり多数の高校生が参加し盛況に終えることができました。また、TVの水曜どうでしょうやAir-G'のパーソナリティーでおなじみの鈴井貴之さんを迎えてのトークライブや、模擬授業、学食での昼食会、鈴井さん司会によるサークル紹介、学内見学をはさんで入試説明会や個別の相談会など内容は盛りだくさんでした。

参加者の中には、地元江別や札幌から来た人は



もちろん遠くは山形、東京、神奈川、愛知など道外からも多数参加していてとても意義のあるものとなり、『来て良かった』『ぜひ情報大に入学したい』『他のオープンキャンパスより内容が充実していた』など参加者全員が満足して帰りました。これもひとえに御協力くださった先生や学生の皆様方のおかげだと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、今後ますます募集環境の厳しくなる中、少しでも本学の知名度アップ、イメージアップを図るため、来年以降も様々な角度から受験生にアプローチしていきたいと思いますが、今後とも皆様方の御協力よろしくお願いします。



小林ゼミナール 3A1 旭 伸崇

僕たち小林ゼミは、4年生8人、3年生6人の計14名で構成されています。

内容は「国際経済学」で、前期は主に「企業と国家の関係」について勉強してきました。

小林ゼミのメンバーはみんな勉強に対して意欲的で、ゼミ中も活発な意見交換が行われ、議論が絶えることがありません。

だから、すぐ煮詰まって長い沈黙があったり、わからないからといってすぐに先生に助けを求めたりすることもほとんどないし、「早く終わろうよ」とか言ったりする人は一人もいません。

小林先生はそんな僕たちを、ある時には厳しく、そして時には厳しくしてくれるとても優しい先生です。

さて、夏休みも終わって後期に入ったわけで、4年生はそろそろ卒論に本腰を入れて取り組むようです。僕たち3年生も、夏休み前に先生から下された「卒論のテーマを決めろ!」という指令に従って、卒論を意識しながらやっていくようです。

これから秋です。勉学の秋です。たくさん食べて、たくさん遊んで、たくさん寝て、がんばりましょう。



前田ゼミナール 4年 佐々木・久保・伊藤

前田ゼミは、3年生12人、4年生12人からなっています。

私たちのゼミは、ネオ・人工知能への挑戦ということで、これまでの方法論にとらわれずに可能性を追求する研究を行っています。

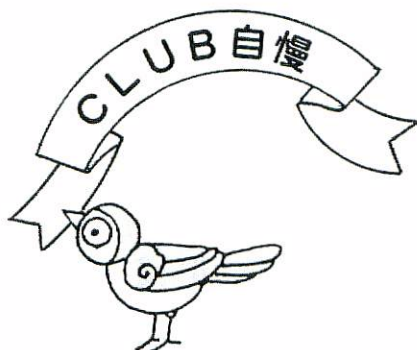
3年次には、人工知能の基本である、人間の思考を中心に参考文献を利用してそのメカニズムについてみんなで議論しました。さすがにテーマ自体が難しい分野であるために、すべての内容を理解することはできませんでしたが、ここで学んだことはそれぞれの研究テーマに生かすことができると思います。

現在、4年生は卒論ということで、これまで学んできたものの中から、興味をもったことを自分で自由に決めて、それに対してどう解決して行け

ばいいのかということを考えて、それぞれのテーマに挑戦しております。具体的には、エキスパートシステム、感性の情報処理、コミュニケーション、学習等といったものがあげられます。

さて、普段は上記のような研究を行っておりますが、年に数回はゼミコンパが行われています。特に、年度末の卒論発表を兼ねたゼミ合宿があります。これは1泊2日で行われるので浴びるほど酒を飲んでも気にしないですむので私は楽しいです(全員が楽しいかどうかは知りません)。

このように無礼きわまりない態度を見せても、酒の席では笑って済ませてくれる前田教授のいるゼミは実に素敵な憩いの場であることは間違いありません。



バレーボール部

キャプテン 3年 佐藤 勝弘

私達バレー部は、部員15人、マネージャー3人で活動しています。でも実際に練習に来るのは6人程度です。試合に出るメンバーもギリギリなので部員を募集しています。

7部リーグある内の7部にいましたが、去年は5部まで昇ることができ、がんばっています。練習は週3回になってますが実際週1回は真面目にやっています。たまに社会人バレーの人達の練習にまざって指導してもらっています。

春のリーグ戦ではなんとか5部4位という結果で成績はいま一つながらもリーグに残留できて内心「ホッ」としております。ですが、もうすぐ次のリーグ戦が始まります。

この大会では、優勝できなくても、満足のいくプレーができればいいと思います。

部員は、極真空手にあこがれてるヤツや、車の免許を1年半前から行き再入校してまだ3段階のヤツや、借金返済にがんばるヤツ等色々いて楽しい人々ばかりです。

ますますの発展に努めていきたいと思っております。



写真同好会

副会長 2A2 高井 明徳

ぼくら写真同好会ナリ。ウリナリ。渡辺マリナリ。ぼくらはキッチンでパンクなナイスガイ。赤貝、ホラ貝、ソニー千葉。写真を撮って40年。撮って撮って撮りまくれ。Mr.オクレのワンマンショー。そしたらきっともらえるよ。うわさのアレがもらえるよ。ロックンロール。ローリングストーン。冬の時代。プリン、プリンス、海援隊。テポドン。人生ゲーム。がんばれキッカーズ。奇面組。奇面フラッシュ。忍法わらじげり。ピリケン。

好きよと言い出せないうちに、あなたのロッカーうばったラブレター。ピンクのうわさが2人を近づけて、あー、私はピンカンじゃーねつまた1人。口ぶえふいて、夏の風にキッス。英語の辞書を一枚やぶり。ぶりぶり。

パーマパーマパーマーン。きたよぼくパーマパーマーン。オッス!!オラ焼肉定食!!洗脳されるなよ。オイスターソース。



◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 大 学 ☆

◇ 事務職員人事 ◇

9月30日付退職
就職課長 野口 富士夫

◆◆ 7月～10月主要行事 ◆◆

☆ 大 学 ☆

7月10日(金) 教授会
9月11日(金) 教授会
10月9日(金) 第10回蒼天祭
～11日(日)

☆ 法 人 ☆
7月24日(金) 松尾記念館竣工修祓式
8月26日(水) 北海道情報大学 創立者松尾三郎
理事長銅像修祓除幕式
9月18日(金) 電子開発学園創基30周年・北海道
情報大学開学10周年記念講演会
講師 高野 孟氏
演題 21世紀展望「今後の景気
動向を予見する」
～今求められる真の情報
は何か～

☆ 通信教育部 ☆

〈前期地方スクーリング〉

7月3日(金)	札幌・大阪	7月10日(金)	全国
～5日(日)		～12日(日)	
4日(土)	広島	11日(土)	名古屋
～6日(月)		～13日(月)	
8日(水)	札幌	17日(金)	福岡・水戸
～10日(金)			

〈夏期スクーリング〉

8月3日(月)～8月22日(土)

〈後期スクーリング〉

9月25日(金)	福岡・千葉・	10月9日(金)	札幌・名古屋・
～27日(日)	静岡	～11日(日)	広島・北九州
10月2日(金)	全国	10日(金)	福岡
～4日(日)		～12日(日)	

〈行事〉

7月21日(火) 前期放送授業科目試験
～24日(金)
9月2日(水) 前期印刷授業科目試験
～6日(日)
9月7日(月) 後期放映開始
10月1日(木) 平成11年度入学生募集開始

◆◆ 広報活動 ◆◆

* 説明会・相談会 *

7月4日(土) 高校教員対象合同説明会(大阪)
10日(金) " (福岡)
12日(日) 高校生対象PiNE-NET大学説明会
8月30日(日) オープンキャンパス
21日(金) 後期北海道地区大学短大進学
～27日(木) 相談会(旭川・札幌・函館・
帯広・釧路)
31日(月) 東北・北海道大学短大進学相談会
～9月21日(月) (八戸・青森・弘前・秋田・盛岡・
山形・新潟・郡山・いわき・仙台・
会津若松・宇都宮・水戸・高崎)
9月8日(火) 道内大学短大進学オリエンテーション
～25日(金) (旭川・北見・札幌・室蘭・函館・
小樽・苫小牧・帯広・釧路)

* 高校訪問 *

7月6日(月) 秋田県
～9日(木)
13日(月) 岩手県
～17日(金)
9月14日(月)～ 道央地区

* 高校内ガイダンス *

7月4日(土) 札幌創成高校
9日(木) 札幌西陵高校
23日(木) とわの森三愛高校
9月1日(火) 札幌東陵高校
2日(水) 根室高校・北広島西高校
10日(木) 帯広緑陽高校
17日(木) 留萌高校
21日(月) 札幌篠路高校
29日(火) 稚内高校

◆◆ 主な来校者 ◆◆

7月16日(木) 秋田西高校教員
22日(水) 砂川地区視聴覚ライブラリー
28日(火) 秋田商業高校教員
29日(水) 長万部高校教員
8月6日(木) 高校教員37名
(北海道情報大学見学会)
17日(月) 大館工業高校教員
20日(木) 新潟電子計算機専門学校研修旅行64名
9月28日(月) 滝川高校PTA

編 集 後 記

待望の松尾記念館が完成しました。用が始まりました。学生の皆さん使
い勝手はいかがでしょう。早いも
ので、学内報も名称が「ななかまど」に命名され第10号
目になりました。皆さんのご期待に添えているかどうか
気になる処です。記事へのご意見・ご要望があれば、図
書館または梅津先生までお寄せ下さい。

さて、本学の創立者松尾三郎前理事長が9月1日ご逝
去されました。創立10周年の節目にとっても残念で寂しい
ことです。心よりご冥福をお祈り致します。(S)

コンピュータールーム・図書館も装いを新たにし運

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第10号

発行日	平成10年10月20日
発行	北海道情報大学
編集	学内報編集委員会